

聴力保護具の選定と活用

聴力保護具の主たる3種類の特徴

耳栓（イヤープラグ）

- 外耳道に詰めて使用する
- 騒音を30デシベル程度減少
- 使い捨て型と再使用型、特注品とフリーサイズで全ての人に合うタイプ
- 材質は発泡体、シリコン、ゴム、又はプラスチック
- 暑い日に装着していても快適性が高い
- 安価に入手可能

しかし・・・

- 正しく適合して装着する事は難しい



耳覆い（イヤーマフ）

- 騒音を25デシベル程度減少
- 装着や取り外しが簡単
- 高電圧作業用や有害騒音だけを取り除く特別な形の物もある
- 特に高い周波数の騒音には、耳栓と併用装着も可能

しかし・・・

- 筐体が大きくかさばる
- 耳が暑くなる等不快感がある



外耳栓（チャンネルキャップ）

- 頭の上にかけるバンドの両端に付いている柔らかなパッド（詰め物）
- 耳の奥の方に押し込まなくても、外耳道を塞ぐことが出来る
- 快適で、蒸れず、軽い

しかし・・・

- 外耳道を完全には塞げない場合がある
- 耳栓や耳覆いよりは効果が劣る場合がある



使用上の注意

絶対に次の物を使って聴力保護をしない

- ステレオヘッドホン
- 小さな綿の詰め物

正しい方法で聴力保護を行う

- 作業に適した正しい保護具を選択する
- メーカーの指示に従って、聴力保護具を使用し、手入れを行う
- 高騒音の作業に従事する際は常に聴力保護具を使用する